

参入企業による取組事例(「安全・安心・新鮮の農産物を、より多くのお客さまに」をモットーに)〔石川県かほく市〕

1. 地域農業の状況

○ かほく市は、石川県のほぼ中央に位置し、市の西部は日本海に面した砂丘地帯、南部は平坦地帯、東北部は中山間地域となっている。

明治には織物業が定着し、昭和40年代から繊維業等の工業立地等を契機に市街化が進んだ。



○ 農業は、大区画水田への整備を積極的に進め、低コストの農業経営への取り組みが増加している。

一方、畑作については、消費者ニーズの多様化や産地間競争に対応していくため、加工品の新規開発等の取り組みにより、地域ブランドの確立を目指している。

○ 近年は中山間地域を中心に、高齢化・担い手不足などにより荒廃農地が増加していた。本件の取組箇所は、10年以上も耕作されておらず、雑木等が繁茂する荒廃農地で周辺農地への影響が懸念されていた。



荒廃農地(再生前)



再生後、一面に広がる
キャベツ畑

2. 荒廃農地再生利用の取組

取組主体	イオンアグリ創造(株)
再生面積	5.05ha(経営面積19.8ha)
作付作物	キャベツ、はくさい、たまねぎ、ほうれん草等

地区名	湖北(こほく)地区
取組年次	平成25年～平成28年
販路	イオン系列店に流通

(1) かほく市への企業参入の動機

- かほく市に「イオンかほくショッピングセンター」が平成20年度に開業。
- 以前より、イオンアグリ創造(株)(イオン(株)の全額出資子会社)は、直営農場で農産物の生産から出荷までを手がけることで安定供給すると同時に、生産から店舗での販売までの一貫した管理による安全・安心・新鮮な農産物の提供を目指していた。

(2) 企業参入による荒廃農地の再生利用

- 平成23年度頃から、ショッピングセンター周辺の荒廃農地を活用した、直営農場の開設を検討していく中で、県やかほく市と協議を進め、平成24年度に県とかほく市、イオン(株)、イオンアグリ創造(株)により農業振興に関する協定を締結し、全国で9箇所目の直営農場として「石川かほく農場」を開設した。
- これらにより、農業の産業化を進め、消費者、生産者、販売者のそれぞれにメリットを生むビジネスモデルの構築を目指している。
- また、地域貢献として、農場での営農が本格化することに伴い、地元から10名の雇用や幼稚園児を農場に招いての収穫体験を実施している。

活用した支援策

H25～28 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)
(再生作業、土壌改良、営農定着、施設等補完整備)



幼稚園児による収穫体験



地元雇用者も参加し収穫体験